

# ハンガリーの幼児教育プログラムとその実態

—国の認めるマイバの教育プログラムを通して—

## Preschool Educational Program in Hungary

—In the case of The Government Approved Malyva Program—

渡邊 さらさ

Sarasa Watanabe

### 目次

- I. はじめに
- II. マイバの教育プログラムと課業の概要
  - 1. マイバの教育プログラム
  - 2. マイバのテーマと課業
- III. 保育研修
  - 1. マイバ幼児保育園・現在の概要
  - 2. 課業の見学
- IV. 考察
- V. おわりに

### I. はじめに

「ハンガリー国民は 1000 万人で、決して国土面積の上でも大国ではない、他の何の言語とも似つかないハンガリー語を伝承していくのはハンガリー国民しかおらず、そのためハンガリーでは自分たちの文化、言語を伝承してゆく子どもたちへの教育に関して熱心なのだ」。拙著「ハンガリー保育研修報告—人口 1000 万人から成る国家の保育と教育—」<sup>i</sup> の中から、あるハンガリー人保育士のインタビューの引用である。ハンガリーは、人口比率からみると世界最多でノーベル賞を受賞している国であり、18 歳まで義務教育、大学においては授業料無料など、教育にひときわ力を入れている国である。

そのハンガリーではどのような幼児教育をおこなっているのか。ハンガリーの保育園では、国の保育指針に則り、すべての園において、教育プログラムを持つことが義務づけられている。それぞれの園は、独自の教育プログラムを作るか、あるいは他の園によって作られた国によって認められている教育プログラムを使っても良いとされている。この国によって認められている教育プログラムは平成 24 年 2 月現在、12 プログラムあり、本学はその中の 1 つ「マイバの教育プログラム」<sup>ii</sup> を作ったマイバ幼児保育園<sup>iii</sup>を中心に保育研修

を重ねて行なってきた。マイバ幼児保育園は、首都ブダペスト市14区、治安も比較的落ち着いた閑静な住宅地区にある。

本論では、平成24年2月にマイバ幼児保育園へ訪園した際に見学した際の記録とインタビューを通して、ハンガリーの幼児教育プログラムとその実態を検証する。

## II. マイバの教育プログラムと課業の概要

### 1. マイバの教育プログラム

マイバの教育プログラムは前述書<sup>6)</sup>で知ることができるが、ここでは、研修でその内容を語ってくださったセーケイ・イロナ園長の話と「ハンガリー保育研修資料」<sup>7)</sup>から抜粋して以下にまとめる。イロナさんは保育士歴28年、園長になって9年目をむかえる保育士であり「マイバ・プログラムは自分の子どものようだ」と前置きをされて、マイバ・プログラムの内容を語ってくださった。彼女はこのプログラムの特徴を以下の4項目にわけてお話しされた。

- ①異年齢児混合クラス—3歳から7歳まで。そもそも成長、発達の度合いは、個々様々である。例えば、5歳の知能レベルがありながら、3歳の手先の器用さしか持たない子など。子どもを年齢ではなく発達で見ている。小学校への入学時も、6歳で入学するか、あるいは7歳で入学するかなど、保育士と親で相談して決める。兄弟も一緒のクラスに入れる。
- ②流れる日課—子どもたちに自分の能力、レベル、テンポ、欲求（必要性）にあわせて日課の中で生活させる。登園と同時にあそび、外遊びも行う。例えば、お昼を食べる時間も個々の欲求にあわせて提供したり、ゆっくり着替えている子に急がせたりもしない。保育士はゆっくり着替えている理由を知る必要があり、個々のテンポを大切に扱う。
- ③あそびの中に学習をふくませる—子ども達はあそびの中で、後に学校で学習するために必要なさまざまな能力を発達させていく。保育士は、子どもにとって大切な活動であるあそびの時間、環境を整える必要がある。また、保育士はこの活動を見守ることで、子どもの発達を把握することができ、個々の発達にあわせた援助、働きかけなど、あそびをとおして行うことができる。
- ④健全児・障害児保育の統合—見学を行なったチューリップクラスでは自閉症の年長児1人と、行動のふるまいに問題のある年長児が1人、入っていた。教育指導所の指導により、手のかかる子ども、独自の教育が必要となる子どもがいるクラスは1人を2人分として数える。障害児はすべての園で受け入れている訳ではないが、マイバでは受け入れている。

## 2. マイバのテーマと課業

マイバの教育プログラムでは、テーマを大きく「人間と自然」、「人間と社会」の2つにわけている。テーマは以下のように分類され、課業が組み込まれていく。課業の種類は、a 詩やお話を含む文学、b うた、わらべ歌を含む音楽、c 手工芸などを含む描画、d 体操、運動あそびを含む体育、e 外界の認識、環境認識、の大きく5種に分類される。

テーマの導入は、必ず家庭から何かテーマに関連する資料や道具などを集める「収集」からはじまる。また、週に1回は、それぞれの課業（文学、音楽、描画、体育、環境認識）が行われるが、一つの課業の中にいくつかを組み込まれ統合的にも行われる。

### ①人間と自然

	大きなテーマ	課業内容	課業の期間	どんなテーマにもつなげることのできるテーマ
四季	春 夏 秋 冬	－天候の変化、流れ －生物界への影響	1年を通して 継続的に行える	ー地球と惑星 ー時間（一日の部分） ー自然の動き（人間、動物、植物） ー色 ー環境保護
生物	人間 動物 植物	ー外見的・内面的な特徴 ー成長（人生を通して、成長、変化） ー機能（運動、急速、呼吸、栄養補給） ー生命維持（栄養、水、空気、温度） ー生命保護（健康保護、動物保護、植物保護、病気）	大きなテーマは 4～6週間にわたって取り上げる。	
物質	素材（土、水、木、金属、布、ガラス、プラスチック、紙など）	ー何でできているか ー特徴（色、形、表面、音、味、匂い） ー利用方法 ー環境への影響 ー変化	大きなテーマは 4～6週間にわたって取り上げる。	

### ②人間と社会

	大きなテーマ	課業内容	課業の期間	どんなテーマにもつなげることのできるテーマ
狭い意味で、また広い意味での私たちの環境	家、家族（家族のメンバー）  保育園とその周り（友だち、知り合い）	ー伝統 ー祝日 ー文化 ー生活様式 ー仕事 ー趣味	大きなテーマは 3～5週間にわたって取り上げる。	ー移動 ・技術的な（機会、おもちゃ、交通手段） ー自然の（人間－スポーツ、レクリエーション、仕事）

	住んでいるところ、私達の街、私達の国（隣人－国民－多民族）	－スポーツ －仕事		－環境保護 －生命保護
技術社会	交通手段 ニュースの伝達	－規則 －手段 －レベル	大きなテーマは4～6週間にわたって取り上げる。	－色 －時間

### Ⅲ. 保育研修

#### 1. マイバ幼児保育園・現在の概要

研修は、最初に園長であるセーケイ・イロナさんから現在のマイバ幼児保育園の概要をお聞きし、課業を見学、質疑応答という流れで行なった。

- ①クラス：5クラス。1クラスは23人から25人で構成されている。障害のある子や行動・ふるまいに問題のある子がいる場合は2人で1人と数える。
- ②職員：1クラスに2人の保育士つく。午前番と午後番が10時半から13時半まで重なり、1週間で交代。また、食事の用意など雑務を行う助手がつく（2クラスに2人）。職員はこの他に、台所、事務、庭師など。全部で17人が園で働いている。

#### 2. 課業の見学



園にある5クラスはみな花の名前がついている（すずらんや、ひまわりなど）。見学を行なったクラスは、チューリップクラスで20人の子どもたちが日々過ごしている。見学を実施した平成24年2月29日（水）のテーマは、「人間と自然」から「物質」から「木」が取り上げられていた。前週は「紙」、次週は「布」、その翌週は「金属」を予定しているという。


「木」がテーマになっているこの週の月曜日には大工さんにきてもらい、道具の使い方について説明を受けたという。部屋のいたるところに木に関連したものが飾られている。森の写真や絵が貼られ、コーナーには「家具屋さん」の設定で、たくさんの木やとんかち、などの道具が用意されている。



とんかちを使って遊ぶ自由時間



	<p>ちょっと悲しいから目もつぶっているみたい。大きな目を書いてあげてもいいかもしれないわ。*8          良く歌えた子にはこのネコをあげるわ。おうちの中にいる時はどうするんだっけ？そう、静かに歌うのね。外では大きく歌うのよね」</p>		
9:11	<p>「ジュビちゃんからどうぞ？」          「ねどこにいる？ 家の中よ？」          -何回か練習したのちにネコを渡す-          「だれか1人でできるかしら？」          「他の子が歌わない方が彼女はよくうたえると思うわ。みんなちょっと目をつぶってくれるかしら？」          「順番に行くから大丈夫よ」</p>	<p>大きく歌う           一斉に手を挙げる          -1人を指名し歌わせるが、周りの子も歌う。注意後、みな静かにきく</p>	
9:15	<p>「今度は違う歌よ。今度はネコにえさをあげましよう。……台所が暑いからスカーフを取るわ！おかしを焼くために暖炉に火を入れたら暑くなっちゃったわ！*9」          「あなたは大きいから詩にしましょう。*10          ……完璧だったわ、グレーティーちゃん！」          「タマーシュもきたわね。あなたはどの歌がいい？」          「……発音がすごく良かったわね。とっても上手だったわよ。もう少し音が高ければ最高だったわ」</p>	<p>遠くから様子を見ていた子が輪に加わる</p>	<p>発音を確認しながら</p>
9:21	<p>「散歩に行きましょう。〇〇ちゃんも最近よく片付けてくれるからネコちゃんあげるわ。*11          「右手がわかる子誰かしら？ ネコがぶらぶらしないで持てる子が上手な子ね。右手はこっちょ。ネコはぶらんこ好きじゃないから歩くだけにしましょ。背はまっすぐね。-唱えながら歩く          「今度は反対まわり。ネコが円の外にいるかしら？グレーティーちゃんの背がとてもきれいだわ。……マーティも最後までつきあってくれたわね。あなたもきてくれてとっても嬉しかったわ」*12</p>	<p>皆立ち上がり、再び輪になる</p>  <p>ふるまいに問題のある子が加わる</p>	<p>ネコには毛糸がかけてあり、皆それを右腕にかける</p>
9:27	<p>-木でできたギロのような楽器を配る          「見て！ 私みたくにできるかしら？」          -唱えの拍子にあわせてうつ。          -唱えの言葉のリズムにあわせてうつ          -楽器をもっていろいろな唱えに合わせる          「今のは拍子にあわせた？ リズムにあわせた？」</p>		
9:40	<p>「じゃあ、楽器を返してね。          ネコの面倒をみに行きたい人はいいわよ。やすりをかけたい人は、あそこでどうぞ？          焼いたケーキはどこに置いたかしら……」          「食べたい人はやすりをかける前に来てね。みんながとっても上手に歌ったからきっとっても美</p>	<p>輪に入らなかった最後の女の子が輪に加わる</p>	<p>ポガーチャを持ってくる</p>

<p>味しく焼きあがったわ！私のだんなもきっと喜ぶわ！」</p> <p>「食べ終わった子はやすりをかけてもいいわ。トンカチを使ってもいいわよ。出てきたゴミはきちんと捨ててね。</p> <p>「さっき私が行ったこと、タマーシュは覚えていたのね。」*13</p>		
<p>9:43 「食べ終わったらお客さんにもポガーチャを配ってきてくれる？」</p>		

#### IV. 考察

この日の課業は、わらべ歌や楽器を使用した音楽の課業、唱えや詩を暗唱させる文学の課業、また姿勢や身体の動きに関して注意を促す(\*5) 体育の課業の統合課業であった。

この見学のと、保育士から課業の説明を受け活発な質疑応答がかわされた。以下にマイバ・プログラムと課業で見られた印象的な行動、言動を照らし合わせ、考察する。

##### 1. 発達にみあった援助

このマイバ幼児保育園では、1人1人をよく知ることによって発達を援助できるという考えのもと、1人1人への働きかけを重要視している。見学の中でもその配慮はいたる所で見られた。その一例として、\*6の場面では、保育士の歌声が当然のことながら一番大きい、ふいに歌ったり止めたりすることでそれぞれの子の発達を観察している。そうすることで、年齢に関係なく、発達の遅い子には短い歌や唱えを、発達の早い子には長めの詩や歌を、と適切な課題を与えることができるのである(\*10)。

また、この1人1人に対する働きかけは、保育士の影響を受けてか子ども同士の中でも見られる。年長者が年少者の頭を撫でてあげたり、輪の中に入れてこられない子に対し、他の子が誘いいれたりする場面も見られた。行動に問題のある子に対しても皆が理解している様子で、保育士が「あなたも来てくれてとっても嬉しかったわ」(\*11)と言ったあとに、他の年長者がこの子の頭を撫でている様子が見られた。このようなシーンは異年齢児混合クラス統合保育の場であるからこそのものであろう。また、自閉症でなかなか輪に入れてこなかった子どもにも配慮のある言葉がけとともにネコを与えている\*12。保育士はこのような言動行動でクラスに緊張を持たせないように心がけているという。そして小さなことの積み重ねでクラスの中が良い雰囲気を作られていくのだと言う。

このような援助やクラスの形成は、異年齢児混合クラス、健常児、障がい児の統合保育という形をとっている上に、保育士の優れた観察力があるゆえにできるのである。

## 2. 情緒の安定

幼児にとって情緒の安定は重要である。1では、1人1人の発達に適切な課題を与えることを書いたが、発達にみあった課題を与えなければ、子どもに緊張感を持たせることになり、その緊張感を常日頃もつ幼児期を過ごすとは情緒面が不安定な大人に育つのではないかという。

クラスに緊張感を与えないために、保育士は配慮のある言葉がけ、行動を常に心がけている様子が見られる。\*1の場面では、落ち着く様子が見られない子どもに皿を渡す（ゲームの中での鬼役のような中心人物にさせる）ことで、環境の安定をはかっている様子もみられた。またテーマの課題をはじめようとした際、トンカチで木をうつ音が騒々しかったため、なかなか静かにならない場面があった。保育士がする次の言動、行動を楽しみに待つ子どもがいる中で、なかなか静かにならず少し場が緊張しそうな次の瞬間、保育士は歌をうたうことで子どもたちの注目を集めていた（\*234）。この時には、ほとんどの子どもたちは一瞬にして保育士の歌に興味を持ち、次に何が始まるかと胸を躍らせている様子が見られた。

また、なかなか輪に入らずに積み木をしている子や、集団の行動を遠くから眺めながらも入っていく様子が見られない子がいたが、保育士はそのまま続けていた。しかし、ベニアでできたネコを使って歌ったり、唱えたり、いろいろなゲームが始まると、1人、また1人と序々に輪に入っていった。これは子どもたちに自分の能力、レベル、テンポ、欲求（必要性）にあわせて日課の中で生活させる、というマイバ・プログラムの流れる日課の特徴でもある。年長児には、なるべく参加させるように促すが、年少児は、その時夢中になっている他のあそびから無理に移動させることはない。これも情緒の安定に繋がるという考えのもとであろう。

## 3. あそびと能力の発達

声を大きくしたり小さくしたり、リズムにのせて正確に発音させるという課題を達成させるために、ベニア板でできたネコを家の陰に隠したり、出したりする動きに合わせ、ネコにちなんだうたや詩を唱えさせていた。また、楽器をもちいて拍を刻ませたり、言葉のリズムを刻むことも学ばせたり、唱えに合わせて姿勢よく歩かせたり、リズムにのせて歩き体感させたりもしていた。課業の終了後には、ネコにやすりをかけている子、目を書き込んでいる子が何人もいた（\*7, 8, 13）。こうして、すべてのあそびの中に学習がふくまれ、1人1人の能力の発達援助に結びついている。保育士は、途中、最初にかぶったスカーフを取っていた（\*9）。この時も冗談めかして言い訳をしながら、あそび心を忘れない様子がみられた。



## V. おわりに

この研修時、一緒に見学した学生が「子どもたちに怒鳴ることはありますか？」と保育士へ質問した。保育士は、笑いながら「怒鳴ったことはある。でもすぐ反省したわ。それは自分の力不足だと思うから。」と答えた。保育士が怒鳴るのは、どうしていいかわからなく緊張している状態だからだと言い、自分の仕事がわかっていたら怒鳴ることが必要な場面はないはずだと説明した。また、全体の段取りが悪いからという原因も考えられる、そのような時は遠くから話さず、近くに行き話したら良い、というアドバイスもあった。

保育士の優れた観察力とその場に適した援助、対応力、1人1人に対する働きかけは、現場も経験年数も違うとはいえ、同じ教育職に就いている私にとって大いなる刺激を受けるものであった。「ハンガリーの幼児教育プログラムとその実態」と大きな題をつけたが、ハンガリーの教育現場の実態を語るには、私の観察力ではまだまだその一部を見たに過ぎない。私が観察しきれなかった保育士の行動、言動はまだまだあるだろうと思うほどに、その教育プログラムの奥深さを感じざるをえない。

この保育士の一連の流れの中で、最初と最後に歌われた民謡は、昔から伝わる古いハンガリー民謡であった。子どもたちは、情緒の安定できる安心した空間と時間の中で、プログラムの大きなテーマ「自然と社会」にもでてくる「私達の国」に対するアイデンティティーを育んでゆく。

### 注

- i 渡邊さらさ (2012) 「ハンガリー保育研修報告ー人口 1000 万人から成る国家の保育と教育」名古屋経営短期大学紀要、第 53 号、pp 86-87
- ii マイバ保育園保育者集団著 コダーイ芸術教育研究所編訳「ハンガリー マイバの教育プログラム」明治図書出版、2001 年 9 月
- iii マイバ幼児保育園 Malyvaovoda 乳児保育園も同じ場所に併設している
- iv 前述書「ハンガリー マイバ教育プログラム」
- v サライ美奈編著「ハンガリー保育研修資料」くるみの木教育研究所、2011 年 1 月

### 参考・引用文献

1. マイバ保育園保育者集団著 コダーイ芸術教育研究所編訳『ハンガリー マイバの教育プログラム』明治図書出版、2001 年 9 月
2. サライ美奈編著 『ハンガリー保育研修資料』くるみの木教育研究所、2011 年 1 月
3. サライ美奈・町田千秋著『くるみの木のおたより』くるみの木教育研究所、2012 年冬号
4. セーケイ・イナロ、チェンゲーティ・マルタ著編 くるみの木教育研究所訳『わたしたちはこんな風に遊んでいますーハンガリー・マイバ保育園の実践からー』2011 年 11 月
5. 渡邊さらさ (2012) 「ハンガリー保育研修報告ー人口 1000 万人から成る国家の保育と教育」名古屋経営短期大学紀要、第 53 号